



237

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2024年11月17日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

「高校野球にリーグ戦を」元球児の挑戦

17日(日)＝1、3面

高校球児の憧れといえば、もちろん甲子園です。春のセンバツ、夏の全国大会への出場に向け、選手たちは日々涙ぐましい努力を続けています。甲子園出場をかけた県大会はトーナメント戦で、負ければそこでおしまい。幸運にも甲子園出場を果たしたとしても、ベンチ入りするのは20人、スタメンともなればさらに絞られます。公式戦に出られない選手があまりにも多い——。そこに問題意識を抱いたのが、元高校球児の阪長友仁さん(43)＝写真＝です。

自身は新潟明訓高で甲子園に出場し、本塁打を放つ活躍をしました。スリランカや

タイなどで野球普及活動や指導に携わり、そこで見た選手の「野球を純粋に楽しむ」姿勢にハッとさせられます。

トーナメント制であるがゆえに勝利至上主義に走り、エースが酷使され、出場メンバーが固定されてしまう。選手の成長を考えれば、総当たりのリーグ戦の公式戦が必要だと考え、日本での大会開催に尽力します。今夏、北海道のある町営球場で、甲子園に出られなかった選手たちが躍動しました。阪長さんの目には何が映ったのでしょうか。執筆は自身も元高校球児という谷口拓未記者です。



迫る

論点 アスリートの遺伝子研究

20日(水)＝オピニオン面

遺伝子からスポーツの適性も分かるようになってきましたが、国立スポーツ科学センターは、2017年から進めていたアスリートの遺伝子と、競技成績やけがのリスクの関連を調べる研究を停止

しました。「選手の選別、差別につながる」との声を受けての措置でした。選手は何を求め、研究はなぜ慎重に行われるべきなのでしょうか。オリンピックの為末大さん＝写真＝ら3人に聞きました。



候補者の訴えを聞く有権者ら



特集 ワイド

「ロックン・ローヤー」が歌いたいこと

20日(水)＝夕刊2面

「憲法ってロックじゃん」。そんな思いを胸に法廷に立ち続けるミュージシャンの弁護士がいます。闘う相手は過酷事故を起こした原発メーカーや国などです。社会のために個人が

犠牲になるのは許せません。48歳で転身し、環境、人権問題に取り組む「ロックンローヤー」、島昭宏さん(62)＝写真＝はどんな生き方をしてきたのでしょうか。



兵庫県知事選の投開票

18日(月)＝1面など

パワハラスメントなどの疑惑を文書で告発された斎藤元彦・前兵庫県知事の失職に伴う知事選が17日投票開票されます。再選を目指す斎藤氏ら過去最多の7人が立候補しています。

す。文書告発問題で半年にわたって混乱した県政の正常化や知事の資質などが主な争点で、激しい選挙戦が展開されています。開票結果や分析を詳報します。

竹橋の窓辺から

編集後記



高校ラグビーの聖地・花園への切符を一番乗りでつかんだ札幌山の手高校(北海道)など、第104回全国高校ラグビーフットボール大会(毎日新聞社など主催)の代表校が続々と決まっています。全国大会は12月27日から毎日新聞デジタルでは、熱戦の模様や代表決定号外(PDF)などを詳しく掲載中。ぜひご覧ください！(中村馨)



毎日新聞